



Title	ベトナム女性詩人Ho Xuan Huong (胡春香) の詩 : 紹介と初歩的分析
Author(s)	ファン, ティ ミー ロアン
Citation	言語文化研究. 2016, 42, p. 317-334
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56195
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ベトナム女性詩人 Ho Xuan Huong (胡春香) の詩

—紹介と初歩的分析¹⁾—

ファン・ティ・ミー・ロアン

GIỚI THIỆU VÀ PHÂN TÍCH SƠ BỘ THƠ CỦA NỮ THI HÀO HỒ XUÂN HƯƠNG

PHAN Thi My Loan

Tóm tắt: Nữ thi hào Hồ Xuân Hương đã đi vào lịch sử nền văn học Việt Nam như một hiện tượng văn học xuất chúng. Có thể nói đã là người Việt Nam, không một ai không biết ít nhất một bài thơ của bà. Thơ bà dù được xây dựng từ những hình ảnh hết sức giản dị nhưng những hình ảnh thơ đó luôn được bà gửi gắm thêm tư tưởng nhân văn sâu sắc. Thơ Hồ Xuân Hương đã từng hoặc có thể tiếp tục bị chỉ trích, phê phán là mang đậm tính dâm tục, không phù hợp với thuần phong mỹ tục của người Việt Nam, nhưng chính nhờ vào việc sử dụng những hình ảnh đầy sức gợi tả như vậy mà Hồ Xuân Hương đã có thể lên tiếng bênh vực người phụ nữ Việt Nam trong xã hội đương thời. Bằng việc phân tích một cách thật nhất, lột tả nhất ý nghĩa được che giấu trong một số bài thơ nổi tiếng của Hồ Xuân Hương, tác giả mong góp phần giúp các sinh viên người Nhật đang hoặc sẽ tìm hiểu về thơ Hồ Xuân Hương có thể hiểu sâu hơn phần nào thơ và những đóng góp của nữ thi hào này.

キーワード: 胡春香, ベトナム女性詩人, 字喃詩

1. はじめに

ベトナム女性詩人と言えば、胡春香を抜きには語れない。これまで国内外で胡春香について書かれた本は数多く出版されている。国外の研究者は胡春香の詩を研究すると同時に、それらを外国語に翻訳している。国内の文学専門家、研究者は胡春香の生いたちおよび彼女の詩の意味について議論をし、その才能を認めている。これからも議論は続き、彼女についての研究も続くだろう。筆者は文学を専門にする者でも、ましてや胡春香についての研究者でも専門家でもない。筆者自身は母国の中学校で初めて胡春香の詩を学んだ時、なぜ「水団子」等ごく日常

¹⁾ 本稿作成に際してはベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学・言語文学学科元講師Nhật Chiêu先生に多大なる御指導を頂いた。ここに記して感謝を表する。

のものを題材とした詩などの勉強をしなければならないのかと戸惑った。また、日本人の学生に胡春香の詩を教える時、「胡春香の詩で使われる表現はわかりにくい」と訴える声も耳にする。そこで、本稿では胡春香のよく知られている何篇かの詩を取り上げて分析、考察し、日本人の学生達にも分かり易く解説してみたいと思う。胡春香自身の生いたちについては残念ながら触れることはできない。

また、胡春香の詩は、そのほとんどが散逸し、それが当時どういう形で書かれたのかはわからない。後に、他の選集などから、彼女の作だと思われるものが集められ、それが、現在、我々が胡春香の詩としてみることができるものである。しかし、テキストによって詩の語句に異同がある。それは、テキストの伝承が口承あるいは写本によってなされてきたためだが、字喃(チュノム)で記された版本も少なくとも2部確認される。それは、『春香遺稿國音詩選』(1914年、ハノイ国家図書館所蔵、以下「版本A」と『春香詩集』(1930年、ハノイ国家図書館所蔵、以下「版本B」)である。そこで、本稿ではベトナム文学評論家の Nguyễn Lộc の『胡春香の詩』²⁾(1982年、文学出版社)を主な資料としながら、本文の議論に関わる部分に限りそれら版本との異同について言及する。

2. 胡春香の詩における「表と裏の両面性」

これまで多くの研究者は胡春香がベトナムの18世紀末から19世紀初頭³⁾の詩人としてきたがこの時代のベトナムの歴史・社会的背景やベトナム人の女性の社会的地位等がわからなければ胡春香の詩を理解するのは難しい⁴⁾。

ベトナムは紀元前111年から約1千年の間中国の支配下にあったとされている。そして、10世紀に中国から独立を果たし、独立王朝を築いてきた。その過程で徐々に中国的な国家を建設してきたが、思想面では儒教をその基盤に据え、社会が形成されてきた。4.2で解説する女性の「三従」思想はその一例である。当時、社会における女性の価値は次の言葉に語られるよう

²⁾ 詩の選択基準について、筆者は次のように述べている。「現在残っている胡春香の詩は全て1913年以降に記されたものである。ベトナム正書法である字国語(チュノム・コック・グー)と字喃(チュノム)で出版される新聞や雑誌で発表された詩の間に異同が多くある。(中略)この場合、胡春香の詩について最も良いものを取り上げることは最も良いやり方だと思う。そのような作品は彼女の優れた業績を反映していると同時に彼女の詩を完成させる上での後世の貢献(それは、多かれ少なかれ確実にあった)をも反映している。筆者は何か一つの資料だけに基づいたのではなく、発表された資料の中から最も良い詩を選んだ。もしどれかの資料にまだ良くない又は適さない文或いは語があったら、他の資料からより良い、又はより適した文、語を選んで校正を行った。同時に、読者が適宜参照できるように備考で選ばれなかった部分を明記した。」(p. 41)

³⁾ 『ベトナム文学史』(Lê Trí Viễn, Phan Côn, Đặng Thanh Lê, Phạm Văn Luận, Lê Hoài Nam, 師範大学及び師範短期大学用, Vol.3, 1978, 教育出版社)の「II. 18世紀末～19世紀初頭の文学の特徴」には次のようなことが記述されている。「Phạm Tải Ngọc HoaにあるTrang王、『宮怨吟曲』(Cung oán ngâm khúc)にある「最高尊重者」、またキム・ヴァン・キエウ(金雲翹)にあるHồ Tôn Hiến, 胡春香の詩にある「賢人君子」の本質はすべて偽善、凶暴、鄙猥である」(p.23)。しかし、胡春香がTây Sơn(西山)時代の作家とする研究者もいる。例えば、上述の Nguyễn Lộc は『胡春香の詩』(1982)で次のように記している。「これまでの研究者は胡春香を18世紀後半～19世紀前半の詩人であるとしている。Hoa Bàng氏は『Tây Sơn時代の国文』で正式に胡春香をTây Sơn時代の文学の代表的な作家の一人とみなしている。」(p.5)。なお、Tây SơnはNguyễn(阮)三兄弟による西山農民運動である。

⁴⁾ 以下の内容は清水(2013)を一部参考にした。

にゼロに等しい。「Nhất nam viết hữu, thập nữ viết vô」(一男曰有, 十女曰無)。「男は一人でも「有り」と言い, 女は十人いても「無し」と言う。」封建的な儒教社会の中で, 女性は様々な苦勞を強いられた。肉体的にも家事と農作業という過酷な労働を強いられてきた。特に, 知識人つまり儒家の家系では, 男性は中国と同様, 科挙の試験に受かって役人になることを目指し, 何年も書生としての生活を送る。それを蔭で支えるのが妻の大切な役割である。

女性の悲劇はそればかりではない。女性は夫の浮気に耐えなければならなかった。なぜなら, 当時のベトナム社会は男の「5人の正妻と7人の妾」(năm thê bảy thiếp)を保証していたからである⁵⁾。20世紀前半のカイ・フン, ニヤット・リン共著の『花を担いで』⁶⁾は18歳の時に人の妻になった田舎の一人の女性の苦勞を語る著名な文学作品である。

この若い女性の夫は師範学校の書生で, 科挙の試験のために勉強に励んでいて, 家計および家事の一切を妻に任せる。夫を支えるために, 彼女は毎日家の庭で育てた花を担いで行って市場で売る。試験日, 夫の結果を知りたかったが彼女は自分の汚い格好が夫の顔を潰してしまうのを恐れて, 試験会場へは行ったものの身を隠して遠くから見ていた。勉強に励んだ夫はその後, 試験に受かったが, その直後に白内障にかかって, 両目の視力を失う。8ヶ月間, 目が見えなくなった夫の不条理な怒りに耐えながら彼女は苦しい家計を支え続けた。しかし, 自分の人生を犠牲にした妻の苦勞を裏切って夫は浮気をした。その上, ドラッグにまで手を出した。あまりの悲しさに彼女は病気になるが, 結局は夫を許した。

前項で紹介した Nguyễn Lộc によれば胡春香は2度妾になっている。上記の『花を担いで』に登場する夫に裏切られた妻も胡春香も誠実な愛を望んでいた。精神的な愛だけでなく, 肉体的な愛もあったであろう。しかし, 当時のベトナム社会においては, そのような望みも隠された形で文学作品や詩等に託すことしかできなかったのである。

胡春香はジャックフルーツ, 扇子, 井戸等当時でも一般の人に親しい物, 峠や洞窟等の自然物を多く題材としたが, 例えば下で分析する『ジャックフルーツの実』に出て来る動詞「杭を打ち込む」は一体何を意味するのか, その行為は何を指すのか, ベトナム人の生活や風習を知らなければ分からないし, 胡春香がそれを通じて何を伝えようとしているのかを理解できないと思う。

つまり, 胡春香の詩には「表に出る意味, いわば原義」と「裏に隠された意味」が存在する。このことについて, 研究書『胡春香の詩』にも次のように記されている。「あるひとつのことを言いながら, 同時に他のことも言う。《わざと見せる意味》もあれば, 《隠された意味》もある」。(Nguyễn 1982: 10)

そこで胡春香の詩をいくつか取り上げてその「表・裏」或いは「陽・陰」の両面性を考察してみたいと思う。

⁵⁾ 勿論, この5と7という数字はたとえの数字で, 多数を意味する数字である。

⁶⁾ Khải Hưng, Nhất Linh (1934)。

まず、『ジャックフルーツの実』(Quả mít)⁷⁾を見てみよう。

Thân em như quả mít trên cây,	私の体は木になるジャックフルーツの実のようだ
Da nó sù sì, múi nó dày.	皮はゴツゴツして、果肉は厚い
Quân tử có yêu thì ⁸⁾ đóng cọc,	君子様、私を愛しているなら、杭を打ち込んでくださいな
Xin đừng mân mó nhựa ra tay ⁹⁾ .	まさぐったりしたら粘液で手はベタベタよ

(Nguyễn 1982: 51)

3行目にある「đóng cọc」(杭を打ち込む)に注目したい。ジャックフルーツの実が早く熟するように、細い薪を実の真ん中にある芯に深く突き刺した上で、日当たりが良いところに干すのがベトナムでよく見られるやり方である。ジャックフルーツが好きで早く食べたかったら杭を突き刺してください。もて遊んだらいやな粘液が手に付いてしまうといったイメージを通じて作家は一体何を伝えようとしたのだろうか。1行目には「thân em」(私の体)、そして3行目には「quân tử」(君子=官僚、知識人)の言葉がある。これは、男女関係を表す詩であることがわかる。また、3行目に「yêu」(愛する)の言葉も出ている。そして、「đóng cọc」(杭を打ち込む)と「mân mó」(まさぐる)の2つの動詞に注目したい。これらを上述の「thân em」,「quân tử」,「yêu」とともに考えれば、「đóng cọc」は男女の性行為であり、「mân mó」は愛撫を表すことが想像できる。

胡春香はジャックフルーツを女に擬人化した。その女は醜くて太っている(皮はゴツゴツして、果肉は厚い)かもしれないが、もしその女を愛するなら大切にしてください。もて遊ばないでくださいと。また、この詩を通じて、胡春香は「君子」と呼ばれる、いわゆる官僚や知識人が偽善者であることを皮肉っている。

次に胡春香の詩の中で最も知られている『水団子』(Bánh trôi nước)を分析してみたいと思う。

Thân em vừa trắng lại vừa tròn ¹⁰⁾ ,	私の体は白く、そして丸い
Bảy nổi ba chìm với nước non.	何度もお湯の中で浮き沈みする
Rắn nát mặc dầu tay kẻ nặn,	こねる者の手によって硬くも柔らかくもなる
Mà em vẫn giữ tấm lòng son!	それでも私は朱い心を守るのよ

(Nguyễn 1982: 51)

まず、この詩のタイトルになっている「水団子」について説明したいと思う。「水団子」はベトナム特有の、中に黒砂糖が入った白玉団子である。今でもおやつとしてよく食べられているが、餡として黒砂糖を入れて、団子の形になるよう手のひらでよくこねなければならない。

⁷⁾ ()内はベトナム語の現代正書法によるタイトルである。

⁸⁾ 版本Aの第3句では、「thì」よりも願う気持ちが強まる「xin」が用いられる。

⁹⁾ 版本Aの第4句をローマ字転写すると *Đừng mân mó nhũ nhựa ra tay* (まさぐるな! そんなことをしたらヤニで手はベタベタよ)となり、風刺するニュアンスがより強まるように思われる。

¹⁰⁾ 版本A、版本B共に第1句をローマ字転写すると *Thân em thì trắng phân em tròn* (私の体は真白で、運勢も抜群)となり、詩全体は水団子とあまり関係なく、女性の運命を直接訴えるような表現となっている。

手の力加減によって団子は硬くなったり、柔らかくなったりする。しかし、どうなっても中にはこの団子をおいしくする黒砂糖が入っている。これは上述した「表に出される意味」である。では、「隠された意味」は何だろうか。

ここでも「thân em」(私の体)に出会うが、上の詩で分析したのと同様に、女性の体を指す言葉である。その体は白くて丸いと語られている。ここにある「丸い」は「太っている」ことを指しており、昔のベトナムの美人を表す基準の一つだと思う。その美女は2行目で言われるように、何度も浮き沈みするのである。ここにある「浮き沈み」は性行為そのものを描写している表現であるが、上で述べた昔のベトナムの女性の人生を見れば本当に苦勞に苦勞を重ね、悲劇に悲劇を重ねるといふ人生のように思えるが、その中に性的生活の問題もあるだろう。その美しい体を大切にする男もいれば、乱暴に扱う男もいるだろう。しかし、どのように扱われても、彼女はベトナムの女性であるべき「貞節な心」を守る。つまり、「水団子」といったベトナム人に親しみのあるおやつを通じて、作家は当時のベトナムの女性の貞節な心を賞揚しようとしたのではないかと思う。

次に胡春香の自然を取り入れた『Ba Doi 峠』(Đèo Ba Dội) を分析してみたいと思う。

Một đèo, một đèo, lại một đèo	峠, 峠, また峠
Khen ai khéo tạc ¹¹⁾ cảnh cheo leo.	この険しい景色を巧みに作り上げた誰かさんを褒めてやりたい
Cửa son đỏ loét tùm hum nóc ¹²⁾ ,	真っ赤な入り口、木の生い茂った屋根
Bạc đá xanh rì lùn phún rêu.	青い石段に苔がまばらに生えている
Lất léo cảnh thông con gió thốc ¹³⁾ ,	ゆらゆらゆれる松の枝に突然の風
Đầm đĩa lá liễu giọt sương gieo ¹⁴⁾ .	ずぶ濡れの柳の葉に落ちる露の滴
Hiền nhân quân tử ai là chẳng?	賢人、君子、登りたくない者がいるだろうか
Môi gối chôn chân vẫn muốn trèo.	ひざがだるく、足が重くても登りたがるもの

(Nguyễn 1982: 54, 55)

厳しく険しいながら美しいところに木が生い茂っている。石段の上に苔がまばらに生えている。そして、ぶつかってくる強い風に松の枝はゆらゆらと揺れて、露の滴は柳の葉がずぶ濡れになるほど落ちて来る。美しい景色だからこそ賢人、君子たちは登りたいのである。

胡春香はこの詩を通じて何を伝えようとしたのだろうか。詩の前半は女性の体が峠のように上がり下がりがあり険しいことを暗示している。5行目と6行目は男女が互いに愛し合っている

¹¹⁾ 版本A, 版本B共「tạc」(作り上げる)ではなく、「vẽ」(描く)が用いられる。この詩で描写される景色をより写実的に表現したものであろう。

¹²⁾ 版本A, 版本B共に第3句をローマ字転写すると Cửa son tím ngắt lơ thơ mọc (真紫の入り口にまばらに生えて)となる。

¹³⁾ 版本A, 版本Bそれぞれの第5句をローマ字転写すると Phảng phất chồi thông con gió thốc (版本A: 漠然とした松の芽に突然の風) / Phấp phới chồi thông con gió thốc (版本B: 突然の風に松の芽は喜び)となる。

¹⁴⁾ 版本A, 版本Bそれぞれの第6句をローマ字転写すると Mọt mọt ngọn cỏ lúc sương gieo (版本A: 落ちる露の滴にぼんやりと見える草) / Đầm dề ngọn cỏ lúc sương gieo (版本B: ずぶ濡れ草に落ちる露の滴)となる。

る時のことを語っているように思える。厳しく高く上がってから深く下がる峠の道のようなその女性の体に「登りたくない」男などいるのだろうか。賢人、君子たちでさえ「登りたがる」のだから。胡春香はこの詩を通じて、いつもいいことばかりいう賢人、君子たちを厳しく風刺し、批判しているのだと思う。

これまで分析してきた胡春香の詩の中で使われるベトナム人の日常生活に親しい物や自然までも、すべて男女の生殖器やかれらの性行為を表す言葉であることが分かった。『ジャックフルーツの実』にある「quả mít」, 「đóng cọc」, 「mâm mó」, 『水団子』にある「trắng」, 「tròn」, そして「thóc」, 「giao」, 「trèo」といった言葉はすべて「表に出される意味」と同時に「裏に隠される意味」も秘めている。ベトナムの文学の用語で言えば、「表に出される意味」は「清」(thanh)で、「裏に隠される意味」は「俗」(tục)である。また、これらの「裏に隠される意味」によって胡春香の詩を「卑猥な」(dâm tục)詩として厳しく批判する人が少なくない。しかし、当時のベトナムの社会的な背景においては、このような「表・裏」のある詩を作れたことは胡春香が勇敢で、女性を思いやる心がある作家であったがゆえのことである。また、このような日常生活に親しいものや、自然等を用いて、女性の望みや運命等についての意味が深い詩を作れたことは彼女が優れた才能を有していたことの証である。以下にその胡春香の優れた才能について少し考察してみたい。

3. 胡春香の優れた作詩法

中唐の詩人の白居易(Bạch Cư Dị)は作詩法について次のように言った。『詩有三本。一曰有竅。二曰有骨。三曰有髓』。これは、詩を作る上で最も重要なのは、音(âm, vần điệu)(竅)、抽象的イメージ(hình ảnh)(骨)と主題(y, tú)(髓)であるということである。

では、ここで胡春香の詩の中に、白居易が求めている「音、抽象的イメージと主題」はどのように扱われているか見てみたいと思う。

3.1 音について

胡春香が作った詩の中には、「七言八句」(thất ngôn bát cú)つまり「七言律詩」¹⁵⁾の詩型で作られた詩が多い。「律詩」の詩には「律」(Luật), 「粘」(Niêm), 「韻」(Vần)等厳格な規則があるが、ここでは胡春香が同世代の多くの詩人より遥かに優れている「韻」のみについて考察してみたいと思う。

「韻」は詩文で、一定の間隔あるいは一定の位置で並べられる同一もしくは類似の韻部(rhyme), つまり音節内の頭子音を除いた部分をもつ音節のことである。

「押韻」とは、同一または類似の韻をもった語を一定の箇所を用いることをいう。

¹⁵⁾「律詩」はベトナム語で bát cú (八句) という。参考までに、「絶句」はベトナム語で tứ tuyệt (四絶) という。

ベトナム語の「七言律詩」の詩では、押韻は1行目、2行目、4行目、6行目と8行目の最後の音節の(平仄の)平韻 (vần bằng) (声調が平板調 (thanh ngang) か低平調 (thanh huyền) かのどちらか)で行われる。胡春香とほぼ同じ時代の女性詩人の Bà Huyện Thanh Quan (婆縣清觀) の最も知られる「Ngang 峠を渡る」(Qua đèo Ngang) を用いて、この「押韻」規則を観察してみよう。

Bước tới Đèo Ngang bóng xế tà	Nhớ nước đau lòng con quốc quốc
Cỏ cây chen đá, lá chen hoa	Thương nhà mỗi miệng cái gia gia
Lom khom dưới núi, tiều vài chú	Dùng chân đứng lại: trời, non, nước
Lác đác bên sông, chợ mấy nhà	Một mảnh tình riêng ta với ta.

(Bội¹⁶⁾ 1996: 211, 212)

この詩も「七言律詩」という詩型で作られているので、このように、1行目 (à), 2行目 (oa), 4行目 (à), 6行目 (a) と8行目 (a) の最後の音節は全て「a」または「oa」であり、平韻である。つまり、押韻がなされているのである。

胡春香も押韻規則に従っているが、Bà Huyện Thanh Quanのように単純な音節(「a」)で韻を踏むのではなく、かなり難しく、しかも独特な音節で韻を踏んでいる。『月に尋ねる I』(Hỏi trăng (I)) で見てみよう。

Một trái trăng thu chín mồm mòm.	Ghét mặt kẻ trần đưa xói móc,
Này vùng quê đỏ đỏ lom lom!	Ngựa gan thẳng Cuội đứng lom khom.
Giữa in chiếc bích khuôn còn méo,	Hỡi người bè qué rằng ai đó,
Ngoài khép đôi cung cánh vẫn khòm.	Đó có Hằng Nga ghé mắt dòm.

(Nguyễn 1982: 53)

また、『Quan Su 寺』(Chùa Quán Sứ) という詩も挙げて考察してみよう。

Quán Sứ sao mà cảnh vắng teo,	Sáng ban không kẻ khuang tang mít
Hỏi thăm sư cụ đạo nơi neo?	Trưa trệt nào ai móc kẻ râu.
Chày kinh, tiểu để sông không đấm,	Cha kiếp đường tu sao lắt léo,
Tràng hạt, vải lần đếm lại đeo.	Cảnh buồn thêm chán nợ tình đeo.

(Nguyễn 1982: 56)

一行目の「mòm」の韻「om」や「teo」の韻「eo」と同じ韻を持つ語を探すのは実はなかなか難しい。恐らく胡春香のように音に敏感な人でなければ作れない詩である。

Đặng Thái Minhはその学位論文(Đặng Thái Minh 1999)で、1990年～1997年におけるベトナムの文学作品に出てくる390万以上の音節の中で出現の頻度が最も高い100の韻を調べた。それによれば、àが最も多く、116,883回、aは5番目に多く、65,845回であったが、この100韻のグループには上述したomもeoもなかったという。

¹⁶⁾ Bội Tinh (1996)。

また、胡春香の多くの詩では音が繰り返される語、つまり畳語 (reduplication) がよく使われる。胡春香以外の詩人が作った詩にも畳語が見られるが、胡春香の優れたところは、「使用頻度の低い音節で畳語を作る」ことである。『月に尋ねる I』をもう一度見てみよう。1行目の「mõm mòm」、2行目の「lòm lom」と6行目の「lom khom」のような語をベトナム語では、「畳語」と言うわけだが、「畳語」を簡単に説明すれば、一つの音節の中の頭子音又は韻を繰り返して、派生語を作ることである。前者はベトナム語では「双声畳語」「láy âm」といい、後者は「重韻畳語」「láy vần」という。上記の3つの言葉の中に、「mõm mòm」と「lòm lom」は頭子音と韻の両方を繰り返している語である。一方、「lom khom」は韻のみを繰り返している語である。胡春香以外の詩人の詩では見られない畳語である。畳語の大きな役割はその語の意味を弱めたり、強めたりすることである。上記の3つの畳語はどちらも意味を強める語である。

次に『Cac Co 洞窟』(Hang Các Cốc) も挙げて見てみたいと思う。

Trời đất sinh ra đá một chòm,	Giọt nước hữu tình rơi <u>lõm bõm</u> ,
Nứt làm đôi mảnh <u>hòm hòm hom</u> .	Con đường vô ngần tới <u>om om</u> .
Kẻ hằm rêu mốc tro <u>toen hoئن</u> ,	Khen ai đẽo đá tài xuyên tạc,
Luồng gió thông reo vỗ <u>phập phòm</u> .	Khéo hớ hênh ra lắm kẻ dòm!

(Nguyễn 1982: 58)

この詩で使われる畳語は「hòm hòm hom」、「toen hoئن」、「phập phòm」、「lõm bõm」、「om om」等であるが、その中の「hòm hòm hom」は胡春香の詩以外では見られない畳語である。なぜなら、「hòm hòm hom」は「còn còn con」や「tắt tắt tạt」等と同様に口語でのみ使用される語であり、詩に用いられることは殆どない。

また、胡春香の音に関する優れた才能は、ベトナム人の独特な言葉遊びの一つである「nói lái」(音の入れ替え言葉遊び)を巧みに使って詩の「裏にある意味」を作ろうとすることにある。

「Nói lái」はベトナム語辞典¹⁷⁾では次のように定義されている。「からかったり、冗談を言ったり、風刺したりすることが目的で2又は3音節からなる言葉の韻、頭子音又は声調記号、場合によっては音節そのものを入れ替えることである。」〈(động từ) Nói khác đi một tổ hợp hai ba âm tiết bằng cách chuyển đổi riêng phần vần hay là phần phụ âm đầu, hoặc phần thanh điệu, có thể có đổi cả trật tự các âm tiết, để bông đùa hoặc chơi chữ, châm biếm〉¹⁸⁾。

上述のように、作り方がいくつかあるが、以下は韻を入れ替えるやり方と音節及び声調を入れ替えるやり方で作られる語の類である。

例えば、元々ある語	→	Nói lái で作られる語
Mèo cái (雌の猫)		Mài kéo (鋏を研ぐ)
Láy chồng (女性が旦那を“もらう”)		Chóng lầy (泥避けて歩く)

¹⁷⁾ Trung tâm từ điển học (2004)。

¹⁸⁾ 注17) 参照。

Ế chồng ((女性) 負け犬, モテない)

Chồng ế (意味なし) 等ある。

上記の詩『Quan Su 寺』の2行目の最後の3つの音節を見てみよう。

「đáo nơi neo」の中の1番目の音節の頭子音「đ」に3番目の音節の韻「eo」、逆に3番目の音節の頭子音「n」に1番目の音節の韻「ao」(声調記号をそのままにする)をつけてみると、「đéo nơi nao」という言葉が作られる。ここでこの2行の意味を見てみよう。

Quan Su はなぜ人気がなく寂しいのだろうか

老僧はどこに行ったのか尋ねよう

確かに「đáo」は漢越音で、「到」の字を書いて、「到着する, 至る」という意味がある。また、「noi」は「ところ, 場所」という意味を有する。しかし、「neo」の意味については、ベトナム語辞典¹⁹⁾には、1) (名詞) ボート, 舟又はある浮きものを特定の場所に固定して、流されないようにするために水中に下ろし、水底に刺す重い物; (動詞) 錨を使って水面の特定の場所に固定させる。)<(danh từ) Vật nặng, thả chìm dưới nước cho cắm chặt ở đáy để giữ cho tàu, thuyền hoặc vật nổi nào đó ở vị trí nhất định, khỏi bị trôi. (động từ) Giữ cho ở yên tại vị trí nhất định trên mặt nước bằng neo)²⁰⁾; 2) (形容詞) (neo người) でよく用いる) 家族に働き手が少なすぎる状態(よって、仕事が非常に大変である)<(tính từ) (thường nói neo người) Ở trong cảnh gia đình có quá ít người có khả năng lao động (nên công việc làm ăn rất vất vả)>と2つの意味しか掲載されていない。もし「どこにいる?」という意味を表したければ、通常「đáo nơi nào?」或いは「đáo nơi nao?」と言わなければならない。しかしながら、そうすると胡春香らしくなくなってしまう。実はこれこそが胡春香の意図するところである。上で述べたように、この3音節をひっくり返すと、「đéo nơi nao」という言葉ができる。その中の「đéo」はスラングで、詩等で通常用いられない言葉で、「性交する」という意味がある。ここで、この句の意味を纏めてみよう。「老僧はどこで性交しているのか尋ねよう」という意味が隠されていたのではないか。このように言葉をひっくり返して、詩の「裏にある意味」を表現したのは、これまで胡春香以外になかったと言っても過言ではないと思う²¹⁾。

このように、胡春香は、韻を踏む技巧だけではなく、畳語を作ったり、言葉遊びをしたりして、内容的には読者に「原義」と「裏にある意味」の2つの解釈を自由にさせ、後にも先にもない様なスキルを用いて非常にクリエイティブな詩を作った人物であったと言える。

¹⁹⁾ 注17) 参照。

²⁰⁾ 〈 〉内の記載は参照のベトナム語辞典に記載されている定義や説明である。

²¹⁾ とはいえ、版本A, 版本B共に本文で取り上げられた詩と全く違う詩が記載されている。それをローマ字転写すると Quán Sứ chùa xưa cảnh vắng teo/ Thương ôi sư đã hóa ra mèo/ Sáng banh vắng kẻ khua dùi mõ/ Trưa trệt không người quét kê rêu/ Chí chất chầy kinh ôm lại dằm/ Lâm dằm trắng hạt dằm cùng deo/ Buồm Từ (từ: 版本B) rập đã sang Tây Trúc/ Gió vật cho nên phải lộn lèo. 第2句にある hóa ra mèo を見れば本文で分析したような言葉のひっくり返しが成り立たない。確かに版本Bにあるこの詩のタイトルは Thơ vịnh chùa Quán Sứ nói lái (音の入れ替え言葉遊びの Quán Sứ 寺を詠む詩) となっており、もしかしたら版本Bにある詩は後から作られたのかもしれないが、それを断言するには更なる研究が必要である。

3.2 象徴的イメージについて

胡春香の詩には井戸（『井戸を詠む』 - *Vịnh cái giếng*）、ジャックフルーツの実（『ジャックフルーツの実』 - *Quả mít*）、扇子（『扇子を詠む』 - *Vịnh cái quạt*）、柱（『ブランコ遊び』 - *Đánh đu*）等ベトナムの日常生活で常に見られる物がよく用いられる。このような物は筆記文学ではあまり見られない、非常に素朴な物ばかりであるが、胡春香の詩では、このような素朴な物もはや物としての存在ばかりではなく、人間の息や温もりを持つ物として扱われている。胡春香はこのような素朴な物を性的行為を表現する道具としたからである。下で例を用いて、この技巧について考察してみたいと思う。

まず、『ジャックフルーツの実』という詩を見てみよう。

前記のように、胡春香はこの詩の3行目で「杭」をジャックフルーツの实の芯の中に突き刺すという象徴的な行為を通じて、男女の性行為を表そうとしている。Nguyễn Ngọc Thanh (2013) は男性の生殖器を表す [Cặc] という言葉について次のように記している。「Cặc」: 実はこの言葉は“Cọc”（固有語）と“Cực”（漢語「極」²²⁾）に関係がある。“Cực”は家の最も高い柱つまり棟木を意味する。簡単に言えば柱 (Cột) のことである。しかし、柱“Cột”と“Cọc”は同じ性質を持っているため、その後“Cực”は“Cọc”の意味で使われるようになった。昔の人々は言葉遊びが得意で“Cặc”の読み方をちょっと変えた“Cọc”はこのように男性の生殖器を表すことになった。ここでかなり論理的な変化が生じたことがわかる。Cực – Cột – Cọc – Cặc

また、4行目の「粘液」^{ヤニ}は女性の膺分泌液（「愛液」）を指している。そして、この詩のタイトルになっているジャックフルーツの实は他でもなく、女性の生殖器を指しているのである。

さらに、『扇子を詠む (I)』 (*Vịnh cái quạt (I)*) という詩も見てみよう。

Một lỗ xâu ²³⁾ xâu mấy cũng vừa,	一つの穴にいくら通してもいい
Duyên em dính dán ²⁴⁾ tự bao giờ.	私の縁はいつから定着したのだろうか
Chành ra ba góc da còn thiếu,	3つに分けても、肌はまだ足りず
Khép lại đôi bên thịt vẫn thừa.	両側を閉じても肉はまだ余る
Mát mặt anh hùng khi tắt gió,	風が止まった時、英雄の顔を涼しくしてやるし
Che đầu quân tử lúc sa mưa.	雨に降られた時、君子の頭を覆ってやる
Nâng niu ướm hỏi người trong trướng,	帳の中の人に優しく尋ねる
Phì phạch trong lòng đã sướng chưa ²⁵⁾ .	中であれこれしてもう満足なのか

²²⁾ 筆者による加筆。

²³⁾ Phạm Du Yên (2007) の注 (1) (p. 48) によれば、扇子のすべての骨に穴がついていて、特定の道具で纏められるという。

²⁴⁾ Nguyễn (1982: 61) では「dính dáng」と記載されているが、『胡春香の詩』 (Phạm Du Yên, 2007, Thanh Niên (青年) 出版社, p. 48) 等では、「dính dán」と記載されている。前者は「関係する」の意味がある。一方、後者は「結びつける」「びったりくっつける」の意味がある。この詩全体の意味からすれば、ここでは、後者の言葉を使うことにした。

²⁵⁾ 版本Bの詩をローマ字転写すると Mười bảy hay là mười tám đây/ Cho anh yêu dấu chẳng rời tay/ Móng dầy chệnh chéch chành ba góc/ Rộng hẹp đường nào cảm một cây/ Còn nóng bao nhiêu còn muốn mát/ Yêu đêm không chán lại yêu ngày/ Hồng hồng má phấn duyên vì vậy/ Chứa đầu vua yêu một cái này (十七それとも十八? /好きで手放したくないよ /薄かろうが厚かろうが、斜めに3つに分けて /広かろうが狭かろうが一本差し込む /熱くなった分涼しくなりたい /夜に飽きたらず昼間も愛し

(Nguyễn 1982: 61)

ここで描かれている扇子の作りを見ても、その機能を見れば、確かにこの詩は一つの扇子を語っている。しかし、胡春香の詩に出てくる物や自然は通常単にそのものの意味だけではなく、男女の關係に繋がるものを意味することが多い。上記の「扇子」も実は女性の生殖器を連想させるものである。

また、ここで強調したいのは、胡春香の詩に出てくる物や自然は同じ状態で残ることなく、変化し続ける。下で Bà Huyện Thanh Quan の『昇龍城懷古』(Thăng Long thành hoài cổ) という詩と比較しながらこの点を見てみたいと思う。

Tạo hóa gây chi cuộc hí trường	創造主よ、なぜ戲場を作り上げたのか
Đến nay thâm thoát mấy tinh sương	あつという間の幾星霜
Dấu xưa xe ngựa hồn thu thảo	昔の馬車の跡に秋草を想い
Nền cũ lâu đài bóng tịch dương.	古い宮殿の礎は夕陽に映える
Đá vẫn trơ gan cùng tuế nguyệt	岩は変わりなく歳月とともに肝を見せ
Nước còn cau mặt với tang thương	水面は悲愴な面持ちで眉をひそめ
Ngàn năm gương cũ soi kim cổ	過ぎし千年の古鏡は今古を映し
Cảnh đây người đây luống đoạn trường.	その景色、この私、眺める度に断腸の思い

(Bội 1996: 187)

『昇龍城懷古』は Bà Huyện Thanh Quan が字喃で書いた数少ない詩の中の一つである。1行目の「戲場」に注目したい。これは、人間の喜、怒、愛、楽が毎日のように起こっている劇場のことを表す言葉である。よって、1行目はこの世の激しい変動に対する作家の嘆きである。とても悲しく、残念な気持ちでいるその作家が見て取れる。そして、8行目を見てみよう。「その景色、この私、眺める度に断腸の思い」。並んでいる言葉のとおり、作家は断腸の思いで悲しんでいることがわかる。したがって、この詩は作家の悲しい気持ちで始まって、悲しい気持ちで終わる。つまり、気持ちの変化は見えない。

一方、胡春香の詩に出てくる物はどのように扱われているだろうか、『ブランコ遊び』(Đánh đu) という詩を見てみたいと思う。

Bốn ²⁶⁾ cột khen ai khéo khéo trông!	この四本の柱を立てた人を褒めよう
Người thì lên đánh kẻ ngồi trông.	乗って遊んでいる人と見ている人
Trai du gối hạc khom khom cất,	男は膝を寄せて背中を前にやや丸めて
Gái uốn lưng ong ngửa ngửa lòng.	女はくびれた腰を後ろに曲げてお腹を寄せる
Bốn mảnh quần hồng bay phấp phới,	四本のピンクのズボンのはためいて

てしまう/頬が赤く魅力的なのはその為/将軍様も王様もこれが好き)。この詩も男女の性行為を描写していることは言うまでもない。

²⁶⁾ 版本Bには「bốn」(四)ではなく、「tám」(八)が記載されている。これはあるいは2組の男女がブランコに乗っている光景を描いているものか。

Hai hàng chân ngọc duỗi song song. 二列の玉足は並行に下に伸びる
 Chơi xuân đã biết xuân chẳng tá? 春を楽しんでいる人は春のことがわかるのだろうか
 Cọc nhổ đi rồi, lỗ bỏ không! 柱を抜いてしまったら、穴が残るだけ
 (Nguyễn 1982: 52)

この詩では、ブランコを楽しんでいる男女の光景を借りて、性交している男女のことを暗示し、それを楽しんだ男性に対して、共に楽しんだ女性を大切にしよう呼びかけている。楽しんでいる最中の男女はとても楽しそうだが、その後大切にしてもらえなかったら女の人は柱が抜かれた穴のように悲しい思いをするだけである。このように、この詩は楽しい雰囲気が始まり、悲しい雰囲気で終わる。上で述べたように、胡春香の詩に出てくる物はたとえ素朴な物でも人間の息や温もりを持つ。よって、常に同じ状態で残ることなく、変化し続けるのだと思う。

3.3 主題について

胡春香の詩は通常一つの主題からなっており、その主題から展開していく。詩が長くなっても、変化しても一つの一貫した主題から離れない。また、その主題はその詩で用いられる音および象徴する事物をコントロールするのである。例を挙げるならば、2. で分析した『ジャックフルーツの実』で胡春香は男性の女性への誠実な愛を主張するため、「杭を打ち込む」というイメージも「まさぐる」というイメージもその主題を連想させるために取り入れられている。同じく、『ブランコ遊び』に出てくる男の「背中を前にやや丸める」といった動きも女の「お腹を寄せる」という動きもこの詩の「髄=主題」である「遊ぶ」という動詞のために使われている。

このように、胡春香の詩は一定の構造を持っている。すべての語彙とイメージは詩の主題のために取り入れられている。逆に、詩の主題はすべての象徴的イメージを繋いでいるのである。

4. 胡春香のベトナム文学への貢献

4.1 伝承文学と筆記文学の懸け橋

ベトナムの伝承文学の一部である歌諺 (ca dao) にも「俗」つまり男女の性行為について言うものがあるが、言い方が異なる。伝承文学はこのようなことについてもかなり直接的な言い方をする。例えば、次のような歌諺がある。

Đêm nằm nghe vạc cầm canh 夜横になって時を告げるゴイサギの声を聞く
 Nghe chuông gióng sáng, nghe anh dỗ nàng²⁷⁾ 夜明けを告げる鐘の音を聞きながら、彼女を愛撫するのを聞く

²⁷⁾ Việt Chương (2010)。

Dày dày sản đúc một tòa thiên nhiên. 一つ一つ積み上げて自然が作り上げた宮殿のように
(Phạm³¹⁾ 2000: 162)

文字どおり、これは、Kiềuが自然そのものが作った宮殿のように美しく、輝かしい人だと想像させてくれる詩である。しかし、これと比べたら胡春香の『水団子』で語られる女性の体のイメージは遥かに具体的で分かりやすいと思う。

前記のように、ベトナムのおやつ的一种である水団子を通して、女性の体とその宿命を語る詩であるが、「白い」、「丸い」、そしてその「白くて丸い」体に対して「こねる」といった具体的なイメージを与えてくれる表現が使われるため、上記のThúy Kiềuを語る詩よりストレートな気がする。

このように、胡春香は伝承文学の影響を受け入れながら、筆記文学の「表・裏の両面性」を非常に巧みに用いる。そのため、胡春香は伝承文学と筆記文学を結びつける詩人だと言えよう。

4.2 胡春香の詩に見るヒューマニティ

封建的儒教社会の中でベトナムの女性は様々な苦勞を強いられた。当時の儒教を基礎とする「男尊女卑」(trọng nam khinh nữ)の社会では「家に在っては父に従い、嫁いでは夫に従い、夫が死ねば子に従う」(tại gia tòng phụ, xuất giá tòng phu, phu tử tòng tử「在家従父、出嫁従夫、夫死従子」)のが女性のあるべき姿とされた。逆に、当時の男性は「5人の正妻と7人の妾」(năm thê bảy thiếp)を持ってよいとされた。しかしながら、そのような環境に置かれながらも、次のような女性の我慢を語る歌謡が見られる。

Chàng ơi phụ thiếp làm chi	あなた、なぜ私を捨ててしまったの？
Thiếp như cơm nguội đỡ khi đói lòng	私は冷えたご飯みたいなものだが、お腹が空いた時には必要でしょ

ここでは男性の浮気を嘆きつつも、女性の自分が必要だろうと開き直る姿が見える³²⁾。

このように女性は常に軽視されて、人の妾になる可能性が十分に有り得る社会において、胡春香の詩は恨みを表す声、抵抗を表す声、女性の権利を求める声となった。胡春香は『叙情 II』(Tự tình (II))で次のように訴えている。

Chén rượu hương đưa say lại tỉnh,	一杯の酒の香りに誘われ、酔っては又醒め
...	(中略)

Mảnh tình san sẻ tí con con!	ほんのひと欠片の恋心でも分かち合いたいもの
(Nguyễn 1982: 43, 44)	

2度目の妾となった胡春香が自分自身の気持ちを伝えているかのように聞こえる。酒で酔った後に残るのは、ただ虚しさであるが、それと同じように、良い縁に結ばれて欲しいと願って

³¹⁾ Phạm Đan Quế (2000)。

³²⁾ 清水 (2013) 参照。

何度も恋愛をした後に、結局残っているのは、悲しみや虚しさである。「酔っては醒め、醒めてはまた酔う」というくり返しは、作家の恋愛の運命、時間の流れにもて遊ばれているかのような感じを与えてくれる。自分の抱く恋心はほんのひと欠片なのに、それを更に他の女たちと分かち合わなければならないのだから、残っているのはほんのわずかである。これは恨みを訴える声でなければ何だろうか。

その上に、胡春香は『妾』(Lâm lữ) という詩で強く抵抗している。

Kê đắp chăn bông kê lạnh lùng, 綿の毛布を掛ける者と寒さに耐える者
Chém cha cái kiếp lấy chồng chung. 一夫多妻の運命などクソくらえ！

(中略)

Thân này ví biết đường này nhi, こんなことわかっていたら
Thả trước thôi đành ở vậy xong. 独身のままで良かったのに

(Nguyễn 1982: 46)

2行目の「chép cha」(クソくらえ)は文学の分野では滅多に見られない怒りを浴びせる言葉である。胡春香は「妾」の運命に対して怒りや恨みを感じたのである。「こんなことわかっていたら、独身のままで良かったのに」は非常に残念な気持ちを表している。幸せになれると期待して妾にまでなったのに結局不幸な運命となった。もし妾=不幸せだということがわかっていたら結婚しなかったのにと自分自身を責めているかのようにも思える。胡春香はこのような詩を通じて、女性の平等と幸せを求めようとしたのだと思う。

5. 字喃詩の女王, 胡春香

ここで、胡春香以外にも字喃で詩を作った女性として Bà Huyện Thanh Quan や Đoàn Thị Điểm (段氏点) 等有名な詩人がいたのに、なぜ胡春香が字喃詩の女王とまで呼ばれるようになったのか考えてみたいと思う。

まず、3.2で分析した Bà Huyện Thanh Quan の『昇龍城懐古』を考察してみよう。

上で分析したように、1行目の「戯場」は「遊ぶところ」のイメージを与えてくれる言葉であるが、同じ「遊ぶところ」を語るのに、胡春香は『ブランコ遊び』で非常に象徴的、且つ表現力が豊かなイメージを描いてくれている。

また、上記の Bà Huyện Thanh Quan の詩には、 tạo hóa (造化=創造主), thu thảo (秋草=秋愁), tịch dương (夕陽), tuế nguyệt (歲月), tang thương (桑滄=悲愴), kim cổ (今古), đoạn trường (断腸) 等多くの漢語が使われているが、胡春香の詩にはそのような漢語がほとんど見られない。その代わりに、胡春香は khom khom cật (背中を前にやや丸める); ngứa ngứa lòng (お腹を寄せる); bốn mảnh quần hồng (四本のピンクのズボン); cọc nhổ đi rồi, lỗ bỏ không (杭を抜いてしまったら、穴が残るだけ) 等ベトナム人に親しみのある口語的な表現をできるだけ取り入れようとした。

鄧陳琨 (Đặng Trần Côn) の『征婦吟曲』(Chinh phụ ngâm khúc) を最初に翻訳した人として知られている Đoàn Thị Điểm もこの詩の最初のところを双七六八 (song thất lục bát) 体詩で次のように語っている。

(漢詩)

Thuở trời đất nổi cơn gió bụi, 天 地 風 塵
Khách má hồng nhiều nỗi truân chuyên. 紅 顏 多 屯

(Thuần Phong 1953: 149)

翻訳版と言いながら、これには「truân chuyên」(屯遭) 等漢語の表現が残っている。同じく、美人の苦勞の多い運命を語るのに、胡春香は『叙情 II』で次の言い方をした。

Trơ cái hồng nhan với nước non 山河に囲まれた孤独の紅顏

(Nguyễn 1982: 43)

最初に来る「trơ」という動詞は『ベトナム語辞典』³³⁾では次のように説明されている。「普段の包まれたりカバーされた状態が無くなり、露出し、剥き出しの状態にある〈ở vào trạng thái phơi bày ra, lộ trần ra do không còn hoặc không có được sự che phủ, bao bọc thường thấy〉。」何を剥き出しにするかと言うと、その答えは紅顏 (hồng nhan) である。紅顏は美人を指す言葉なのに、胡春香はわざとその前に「Cái」を使った。ベトナム語では、「Cái」は例えば、「một cái bàn (一つの机)」、「một cái ghế (一つの椅子)」等類別詞としての用いられ方の他に、名詞強意語³⁴⁾ (định tố) としての用いられ方もある。『ベトナム語理論テキスト』³⁵⁾では、この用いられ方について次のように述べている。

ベトナム語では名詞強意語「Cái」は強調、皮肉又は不機嫌に文句を言うというニュアンスを持つ。数量を表す言葉の後、そしてあらゆる種類の名詞の前に置かれる。例えば、「この肉は既に腐ってしまってる！」等。〈“Định tố cái trong tiếng Việt thường hàm ý nhấn mạnh, mỉa mai, đay nghiến; về cách kết hợp nó thường đứng sau từ chỉ số lượng, trước tất cả các loại danh từ. Ví dụ: Cái thịt này thối rồi.”〉

胡春香は「皮肉」のつもりで上記の詩に「Cái」を用いたのであろう。彼女はこの名詞強意語「Cái」を用いて、わざとこの詩に登場している自分自身を軽んじているかのように思える。

このように、Bà Huyện Thanh Quan や Đoàn Thị Điểm 等の女性詩人の詩には漢語が多く使われているのに対して、胡春香はできるだけそれらを避け、ベトナムの一般人に親しみのある言葉を使っていたことに加えて、彼女の優れた作詩法および筆記文学の詩でよく見られる「表と裏の両面性」の中の「裏」を非常に巧みに使えたことで、胡春香は字喃詩の女王とまで呼ばれるようになったのだと思う。

³³⁾ 注17) 参照。

³⁴⁾ 一般に名詞限定語や名詞修飾語等と呼ばれることもある。

³⁵⁾ Nguyễn Anh Quế, Hoàng Trọng Phiến, Phạm thị Thành (1976)。

6. おわりに

Nguyễn Lộc (1982:18) の言葉を借りるならば、「胡春香の詩の土台になっているのは、当時の社会的背景と彼女自身の人生であると言えよう。胡春香は伝統と時代、筆記文学と伝承文学の結晶である。胡春香は収束点、より正確に表現すれば、一般的女性の人生を彼女自身の人生へと屈折させたものである。」胡春香の詩を理解するためには、ベトナムの当時の政治・社会的な背景における女性の身分、人生とベトナムの文学についての理解が無くてはならない。また、胡春香は「卑猥な」詩人と批判する意見もあるが、胡春香の詩が訴える当時の「女性の運命」についての事実や、「女性の平等」を訴える声をそこから正確に読み取らなくてはならない。

最後に、いくつものテキストが確認される胡春香の詩を本格的に研究するには、本来は綿密なテキスト・クリティークの作業が必要であり、その作業を通じて、重要な問題が露呈するケースも考えられる。今後の課題としたい。

[参考文献]

<ベトナム語>

Bội Tinh (1996) *Người đẹp Nghi Tâm – Cuộc đời và thơ Bà Huyện Thanh Quan* [Nghi Tâmの地の美わしき人— Bà Huyện Thanh Quanの人生と詩], Nxb. Giáo dục

Chiêm Vân Thị (chủ biên) (1974) *Thúy-Kiều truyện tường chú* [キム・ヴァン・キエウの詳注] (quyển hạ), Nhà văn hóa Bộ Văn-hóa Giáo-dục và Thanh-niên

Dzuy-Dzao (2000) *Sự thật thơ và đời Hồ-Xuân-Huong* [胡春香の詩と生いたちについての事実], Nxb Văn học

Đào Duy Anh (1974) *Từ điển truyện Kiều* [翹傳辞典], Nxb. Khoa học xã hội, Hà Nội

Đặng Thái Minh (1999) *Từ điển tần số tiếng Việt (với các tiện ích phục vụ ngôn ngữ học so sánh)*, 『比較言語学に役立つ』ベトナム語頻度辞書』, Luận án tiến sĩ ngữ văn, Đại Học Quốc Gia thành phố Hồ Chí Minh, p.200

Đình Gia Khánh (chủ biên) (1977) *Điển cố văn học* [文学典故], Nxb. Khoa học xã hội, Hà Nội

Khái Hưng, Nhất Linh (1934) (片山須美子訳 1995) *Gánh hàng hoa* [花を担いで] アジア文化叢書, 穂高書店。

Nguyễn Anh Quế, Hoàng Trọng Phiến, Phạm thị Thành (1976) *Giáo trình lý thuyết tiếng Việt* [ベトナム語理論テキスト], Trường Đại học Tổng Hợp, Hà Nội

Lê Trí Viễn, Phan Côn, Đặng Thanh Lê, Phạm Văn Luận, Lê Hoài Nam (1978) *Lịch sử văn học Việt Nam* [ベトナム文学史] (sách Đại học Sư Phạm), tập 3, Nxb. Giáo dục

Nguyễn Lộc (1982) *Thơ Hồ Xuân Hương* [胡春香の詩], Nxb. Văn học

- Nhan Báo (2000) *Phát hiện mới về Hồ Xuân Hương* [胡春香に関する新発見], Nxb. Khoa học xã hội, Hà Nội
- Ôn Như Nguyễn Như Ngọc (2000), *Nam thi hợp tuyển* [南詩合選], Nxb. Văn hóa Thông tin
- Ôn-Như Hầu (1970) *Cung - Oán Ngâm – Khúc* [宮怨吟曲] (Les Plaintes d'une Odalisque), Trung tâm học liệu - Bộ Giáo dục
- Phạm Du Yên (2007) *Thơ Hồ Xuân Hương* [胡春香の詩], Nxb. Thanh Niên
- Phạm Đan Quế (2000) *Truyện Kiều và Kim Vân Kiều truyện* [傳翹とキム・ヴァン・キエウ物語], Nxb. Văn học
- Phạm Xuân Độ (1970) *Nữ thi hào Việt Nam* [ベトナム女性詩人], Trung tâm học liệu - Bộ Giáo dục
- Thuần Phong (1953) *Chinh phụ ngâm khúc giảng luận* [征婦吟曲講論], Nxb. Văn hóa
- Trung tâm từ điển học (2004) *Từ điển tiếng Việt* [ベトナム語辞典], Nxb. Đà Nẵng
- Việt Chương (2010) *Từ điển thành ngữ - tục ngữ - ca dao Việt Nam* [ベトナムの慣用句・ことわざ・歌諺辞典], Nxb. Đồng Nai

<日本語>

- 清水政明 (2013) 「字喃詩に見るベトナム女性」 ベトナムミストクラブ・シンポジウム,
2013年5月23日

<英語>

- John Balaban (2000) *Spring Essence – The poetry of Hồ Xuân Hương*, Copper Canyon Press

<ホームページ>

- Nguyễn Ngọc Thanh (2013/6/20) *Phân tích một số từ biểu thị sinh thực khí nam giới trong cách gọi dân gian* [民間で用いられる男性の生殖器を表すいくつかの言葉の分析], Văn hóa Nghệ An
<<http://www.vanhoanghean.com.vn/chuyen-muc-goc-nhin-van-hoa/nhung-goc-nhin-van-hoa/phan-tich-mot-so-tu-bieu-thi-sinh-thuc-khi-nam-gioi-trong-cach-goi-dan-gian>>